

# 武德成業

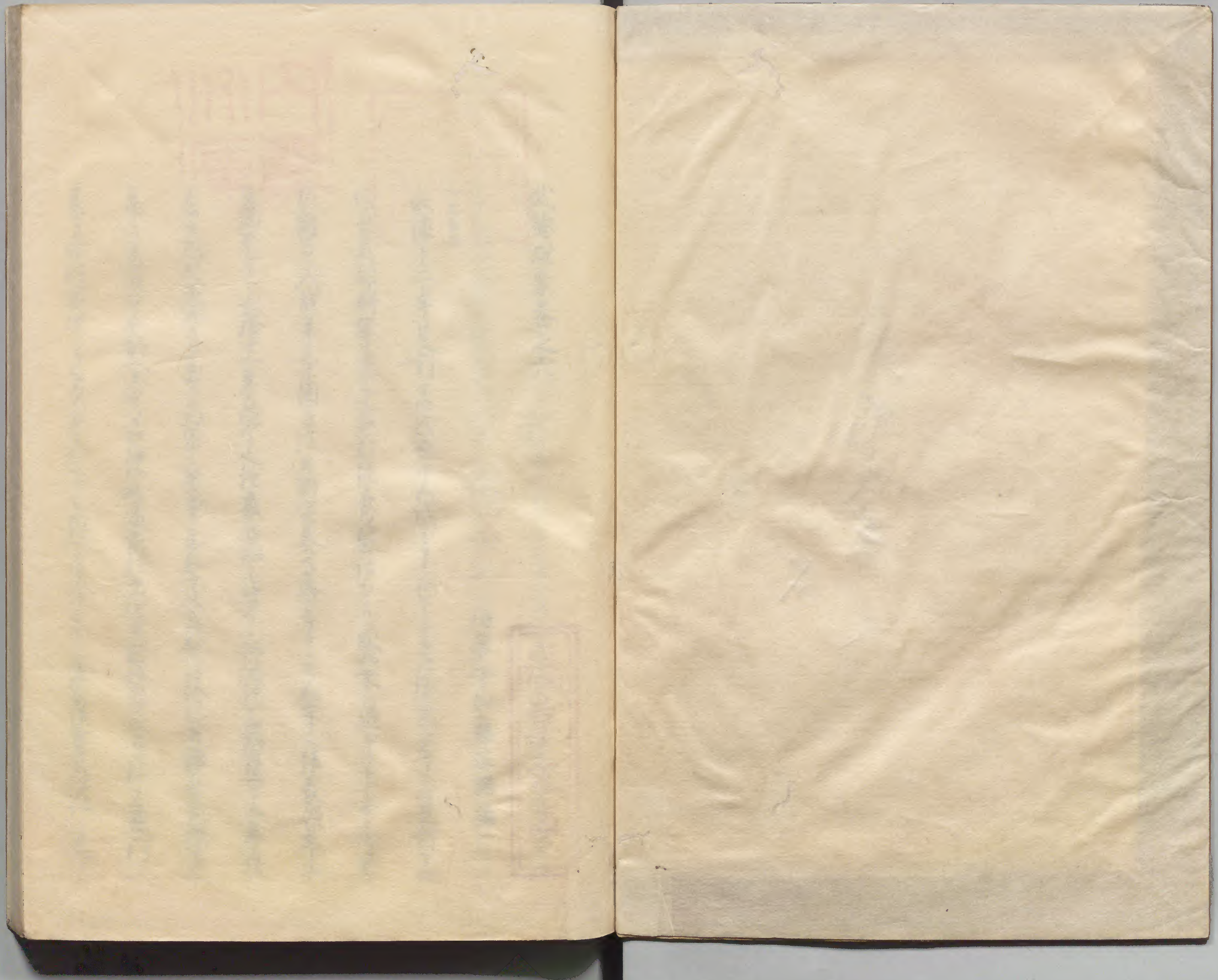
六

内閣文庫	
番號	和 15251
冊數	63 ( 6 )
函號	150 12

内閣文庫			
架	冊	號	類
五〇	六	五二五	和書
四	三	一	





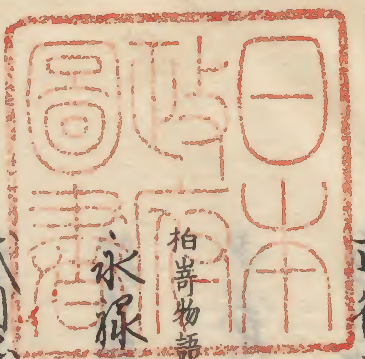




武徳成業卷之六

淺草文庫

伯耆守加藤正脩編



柏壽物語

永祿十二年是利十代也十代はもとせとも左根出なり是利十代

代目我昭將軍宣下海に信長は世活なり叔世不の道なり事由

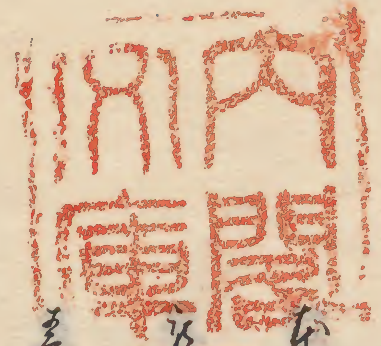
本國より入越年本國よりは日嗣宗基と格もより一入寺に信長は早小

以酒乞と永祿十一年は冬之信長は海に安くと河波は之好望十二年は

去京越之思や小出の將軍は事不承る二好一族は者洛外東福之

来り居り白京越(要)る莫濃林者取法士曰日夜在公可任(想)門(

来)り此村越中(了)方(て)心(と)内(も)入(る)一(九)去(世)在(公)可(任)と(来)り









りしと申す付之拾六人共大広屋基忍入候と流る二好一候と  
申すはわりの二好を流る候と申すは流る小乃と申すは是流と流中  
候御所の焼拂小事用候と申すは料二万両出せと申す付之是流  
差出す是流候と申すは列衆是利等氏と申すは東北河院後將軍  
少成二條之金我満持時室町菟井河所六代目東山我政村下京  
一は移後万里小路一は福之屋後我尚將軍北村仲の小路一は移後  
我昭將軍ブエ町一は福之屋後庄下ブエ町一と申すは合十位  
出候人較と申すは接小路一は事奉在河村井民部河田下と申す  
信長善治一は河田下京と申すは是流と申すは河田下と申すは

名將下と申すは流石田合有候と申すは且澤井飯前と申すは信長善治之  
善治の内を幸江別と申すは合戦の時澤井が御所一と申すは河田家の流  
將実善と申すは澤井方の口海と申すは合戦の時澤井が御所一と申すは澤井  
方也と申すは二百四十人許と申すは信長一と申すは去々澤井が御所  
一と申すは澤井が御所一と申すは澤井が御所一と申すは澤井が御所一  
より澤井が御所一と申すは澤井が御所一と申すは澤井が御所一  
用居候尼ヶ橋より河田信長は河田後之人數之と申すは百餘町人  
家居焼拂り候と申すは河田信長は河田後之人數之と申すは百餘町人  
河田將軍候の信長一は河田信長は河田後之人數之と申すは百餘町人







テ八千余騎ヲ師ヒ玉ヒテ岡崎ヲ出サセラレ吉田ニ御逗留  
アリ遠州ノ士久野三郎左衛門宗能内通シテ御旗本ニ属ス  
其外鴨江寺ノ僧徒見付中泉池田ノ士氏皆人質ヲ出シ飯服  
シケリ  
神君吉田ニマシマシテ諸大將ヲ召レ軍ノ評  
定シ玉ヒ遠江國ノ繪圖ヲ以テ道ノ難所城々ノ要害ヲ御覽  
アリテ御人衆ノ備ヲ定玉フ酒井左衛門尉忠次石川日向守  
家成本多豊後守康高植村出羽守家政松平弥左衛門小栗仁  
右衛門等先陣タリ酒井雅樂助正親松平玄蕃頭清宗加藤播  
磨守景元平岩七之助親吉松平又七郎戸田因幡守牧野新次

郎松井左近忠次菅沼新八郎定盈等也御旗本ニハ石川伯耆  
守數正本多肥後守忠真本多平八郎忠勝天野三郎兵衛康高  
高力與左衛門清長等也内藤三左衛門信成本多作左衛門重  
次渡邊半藏守綱

武功實録

渡辺半藏鎗十一度首九ツ服部半藏ハ鎗二度首十一渡辺半  
藏ハ敵前ニテ下散モ鳴ホト振ヒ候テ以後敵ニ中ルト否ヤ  
格別ノ剛兵ニ見エタリ

武徳大成

榊原弥兵衛軍奉行タリ天野高力本多ニ被仰付諸軍ノ禁令  
三ヶ條ヲ定メラル



一 甲乙人不可乱妨狼藉事

一 山林竹木猥不可伐採事

一 押買並人足傳馬不可猥仕事

神君諸軍ヲ引卒ニ王ト濱松橋輪ノ法花寺ニ陣ヲ取玉フ此  
時武田信玄小田原ヲ攻テ北條氏康氏政ト對陣アリ信玄軍  
ヲ出シテ駿府ニアリ

武功實録

北條氏康ノ家臣暮林壹岐感狀十一有其内四通ニハ其方働  
ニ依テ數千ノ敵ヲ却ケ味方ヲタスクト有ヨシ

水野新右衛門後ニ石見ト云氏康ニ仕ヘテ知行千石取ル暮林カ聳タ

リ所權現様ニ九歳ノ年増ナリ小田原没落以後被召出

關ヶ原陣ノ時御留守居タリ石見守常陸助討死此内方紀州父

松平薩摩守ニ嫁ス鳥居九京ハ薩州孫也疾右衛門殿ハ薩州

聳也

家忠日記

十八日北條氏康カ男氏政四萬五千余騎ヲ卒メ今川氏真ヲ  
援シト進テ薩埴山ハ幡平ヲ油井蒲原辺ニ陣ス信玄山縣三  
郎兵衛尉ヲメ一千五百余騎ヲ加ヘ駿府ノ城ヲ守ラシメ信  
玄一万八千余騎ヲ率メ興津河原ニ屯シ北條父子ト對陣ス  
武德大成  
神君山岡半九衛門植村與九衛門ヲ御使トメ信玄ヘ仰遣サ



レケルハ氏真懸川ノ城ニ指籠ル我一軍ニテ攻落サシテハ  
掌ノ中ニアリ然レハ最前ノ約束ノ通大井川ヲ堰トスヘシ  
貴公ハ駿州ヲ治ラルヘシトアレハ信玄返事ニ仰ノコトク  
遠州ハ貴所ノ所務タルヘキヲ約束背キ申ヘカラストナリ  
神君見付ノ古城ヲ崩サシメ湟土午ヲ新ニセラル今川家ノ  
大將朝比奈兵衛尉引間ノ城ヲ守ル去年駿府ノ破レシ時今  
川家之諸將三浦右衛門カ悪事ヲ憎ミ立去者二十一人アリ  
三浦追放セララルト聞テ飯ル者多シ此時引間ノ民百姓共  
三河ノ兵威ヲ恐レテ妻子ヲ引連城中へ逃入ル者二三千人

ナリ皆々申ケルハ三河ノ大軍懸川引間ノ在々所々ニ充滿  
シ民百姓迫モ撫切ニスヘシトノ風聞故ニ城中へ逃入候也  
ト口々ニ申ケレハ朝比奈大ニ驚キ今川家ノ御運ハ尽タリ  
ト思ヒ民百姓ニ言聞セケルハ我モ人數ハ寡クメ敵ヲ防ク  
ヘキカモナシ此城ヲ明テ懸川へ入ント思フ汝等ハ三河ノ  
軍士ニ從ヒテ死ヲ免ルヘシト云合メテ正月八日ノ曉城ヲ  
明テ懸川ノ城へ逃入ケル士卒モ皆方々へ逃散ス引間ノ民  
百姓皆々  
神君ノ後陣へ參リ此由ヲ告ケレハ酒井雅  
樂正正親侍一人ヲ百姓共ニ差添テ御本陣へ遣ス  
神



君聞之召し則石川伯耆守天野三郎兵衛ヲ引間ノ城へ遣ハ  
サシ城内ヲ掃除シ井ヲ替サセテ御陣ヲ引間ノ城へ移サシ  
ケリ十二日 神君御下知アリテ諸軍ヲ懸川ノ城下へ

押出ス先陣ハ桑田村ニ備へ後陣ハ曾我山ニ陣ヲ取小笠原  
與八郎長忠久野三郎左衛門宗能ハ天王山ニ登テ備へタリ  
渡辺半藏本多作左衛門服部半藏ハ諸軍ヲ馳城ノ四方ヲ取  
卷ケレハ城中ノ士卒出テ戦フ久野宗能金丸山ヲ攻ケルニ  
日根野備中守同弟弥次右衛門弥吉等強ク防キケレハ宗能  
敗軍ス味方は是ヲ救ヒケレハ敵強ケレハ林藤左衛門加藤孫

次郎松下新助小林勝之助等討死ス敵ノ兵モ多ク討シケル  
ユへ梶原平三郎ト云者殿リメ城中へ引退ク 神君味  
方ノ敗軍ヲ怒ラセ玉ヒ十七日御陣ヲ天王山ニ移サセ玉フ  
二十日氏真ヨリ密カニ久野ハ右衛門カ許へ使ヲツカハシ  
其一族ニ申ケルハ夜ノ中ニ城中ヨリ兵ヲ出メ三河ノ軍ヲ  
攻ムヘシ汝等一門後口ヨリ狭シテ攻ハ大ニ利アルヘシ汝  
等功アラハ遠州一國ヲ授クヘシト有ケレハ久野淡路守宗  
益同依渡守宗憲同彈正忠宗政同采女等皆同心メ三郎左衛  
門宗能ヲ招テ勸メケレハ宗能ハ久野ノ惣領ニメ去年



神君へ一族ヲ召連飯服之恩賞ヲ賜リケレハ此事ニ同心セ  
スメ飯リケル二十一日氏真再阿井与四郎ト云者ヲ使トシ  
テ八右衛門カ許へ遣ハシ城中ヨリ兵ヲ出スハ明日ノ夜  
ナルへシ後卷セヨト有ケレハ宗益等相談メ宗能ヲ殺シ功  
ヲ立へシトソ言ケルハ右衛門思ケルハ宗能ハ一門ノ惣領  
ニメ嫡家ナレハ君臣ノ義アリ是ニ背クハ不義ナリト思ヒ  
定メテ阿井與四郎ヲ捕へ置テ事ノ子細ヲ宗能ニ告ケレハ  
宗能喜ヒ二十三日ノ早朝ニ  
神君ノ御陣ニ参リ有ノ  
終ニ申上ル  
神君大ニ悦ヒ玉ヒ宗益宗憲彈正米女等

ハ宗能ト八右衛門ト如何様ニモ討ラヘトテ則宗能力加勢  
トシ松平與市郎忠正植村出羽守家政菅沼新八郎定盈三宅  
惣右衛門康貞ニ被仰付久野ノ本丸へハ籠置宗能ハ二ノ丸  
ニ籠ラセラル後ニ宗益ハ殺サレ宗憲並彈正米女ハ追放セ  
ラル  
神君御謀ニテ大須賀五郎九衛門康高大久保七  
郎右衛門忠世本多豊後守廣孝松井九近忠次水野惣兵衛忠  
重五人ヲ大将トシテ伏兵ヲ懸川ノ城門ノ傍ニ宵ヨリ遣シ  
置鳴ヲ静メテ待居タリ夜更テ城中ノ兵人ヲスクリテ城門  
ヨリ出ケルニ伏兵起テ急ニ戦ヒケレハ今川ノ兵夜ノ明ル



マテハ防キケレハ恠ヘスメ城中へ引退ケルヲ内藤四郎九  
衛門小坂新助大久保次右衛門忠佐敵ニ從ヒテ城門へ乱レ  
入日根野備中守兄弟等踏止テ防キケル間忠次カ兵士九右  
田与平岡田竹右衛門石川新兵衛等鎗ヲ合テ味方ノ兵匠強  
ク攻ケル故ニ敵兵多ク討レヌ水野忠重ハ美濃ノ浪人伊藤  
武兵衛ヲ突伏セケルヲ棕原次右衛門其首ヲ取ル忠重モ又  
大谷七十郎ヲ討取ニケル大久保忠佐ハ迹松丹波ヲ討取ル  
忠佐其外ニモ鎗ヲ合セ敵一人ヲ突伏セ姪ノ忠鄰ヲ後相  
摸守呼  
テ此首トレトイヒケレハ忠鄰我勇ニアラストテ敵ノ中へ

欠入テ遂ニ首ヲ得タリ水野太郎作ハ日根野弥吉ヲ討取ル  
内藤三右衛門信成鉄炮ニ中リケルカ敵兵其首ヲ取ント馳  
集リケレハ内藤弥次右衛門敵ヲ射拂ヒ信成カ家人岡田甚  
右衛門モ強ク防テ信成ヲ負テ引退ク内藤四郎九衛門小坂  
新助大久保喜六郎忠豊筒井内藏忠次等首ヲ得タリ渡辺半  
藏モ鎗ニテ敵ヲ突倒ス  
古人物語  
渡辺半藏後忠右衛門ト云子半藏後是モ忠右衛門ト云子今  
ノ大隅守也大天龍ニテ今藤傳次郎手負候渡辺忠右衛門ヲ  
見カケ傳次郎申候ハ手負候退テ呉ヨト申ノ時忠右衛門心



得タリ死ハ仕マシ心易ク候トテ取タル首ヲ捨テ忠右衛門  
ヲ肩ニカケ三里余退申候  
權現様御意味方一騎ウタルレハ敵千騎ノ強ミト申候ニ味  
方助ケ申候ハ七度ノ鎗ヨリハ増ナリトテ後鎗半藏ト可申  
ト御意被成候也後ニ忠右衛門申候ハ一代ノ不覺也吾カア  
レハコソ退申候何トメ退ラルヘキヤ加様ノ時ハ看病ノ躰  
ニモテナシ小刀ニテサレ殺シ弁不苦ト被申候也忠右衛門  
八十歳死申サレ候也

武徳大成

此戦ニ小坂新助燈籠ノ指物ヲ指ケレハ城門ヲ一番ニ入ケ

ルヤウニ見ヘケレトモ一番ニ入ケル者ハ内藤四郎左衛門  
渡辺半藏ニテソ有ケル敵兵透間ヲ見テ引退キ門ヲ閉テ守  
リケレハ味方入事ヲ得ス敵兵門ノ扉ヲ扣テ出ルヤフニ見  
セケレハ味方ノ兵驚キ散ケレハ渡辺半藏服部半藏瀧見弥  
平次等ハ退カス伺ヒ待ケレハ敵出サリケレハ引退キ又二  
十三日懸川ノ城兵天王山へ出ケルヲ山家三方先陣トメ攻  
戦ヒ長篠ノ菅沼左衛門尉貞景先駈メ討死ス一族菅沼美濃  
守敵兵讀井善右衛門ト鎗ヲ合ス田嶺ノ菅沼刑部カ一族菅  
沼美濃守等敵ノ逃ルヲ追テ城中ニノ丸マテ攻入テ兵ヲ全



フメ飯ル二月  
神君軍士ヲ休メント思召テ兵ヲ引テ  
見付へ飯リ玉ヒ懸川ノ城ノ西河田村砦ニハ三河ノ兵士ニ  
代ルル守ラシメ玉フ笠町ノ砦ハ作年ノ奥平九八郎貞能  
長篠ノ菅沼山家三方ヲメ守ラシメ久野城ハ三郎左衛門宗  
能守リ曾我山ハ与八郎長忠守リケリ  
神君見付ニマ  
シクテ鎌田原ニ城ヲ築カント思召テ山本帶刀成行ニ命シ  
繩張ヲシ國中ノ人足ニ仰付ラシ築カシム國士ニ濱名肥前  
守頼廣後藤仇渡守氣賀ノ新田友作等未御旗元ニ從カハス  
濱名カ家臣共勸メケルハ  
神君ハ當時ノ名將ニメ濱

松モ御手ニ付ナレハ早々降参シ城普請ヲモ勸メラルヘシ  
ト諫メケレハ頼廣實モト思ヒ後藤仇渡守ヲ伴ヒ降参ス如  
何シタリケレ仇渡守御陣ノ前ヲ乗打シケレハ  
神君  
怒リ玉ヒ仇渡守ヲ鉄炮ニテ討殺サシム頼廣モ殺サレシト  
風聞有ケレハ頼廣父子甲州へ落行ケレ居ラレスメ江州  
へ行テ病死シケリ頼廣カ一族大屋安藝守政頼同弟金太夫  
頼次其外一族共濱名ノ城ニ指籠ル  
神君本多平八郎  
忠勝ニ戸田三郎右衛門忠次ヲ差添ラレ濱名都筑ノ二城ヲ  
巡見セシメ要害ヨキ城ナレハ急ニ落難カラント申上ケレ



ハ  
神君則御使ヲ遣ハサレ異儀ナク飯服セハ濱名ノ  
舊領相違ナク可被下ト仰アリケレハ士卒皆彼城ヲ出ツ本  
多忠勝戸田三郎右衛門ニ仰付ラレ濱名ノ城ヲ勤番セシム  
城中ノ士大野助藏大屋善太夫同金太夫中根權兵衛桐生与  
太夫濱名ノ一族共皆忠勝カ与カトナル安方伊賀守大屋莊  
右衛門石原孫次郎等ハ戸田三郎右衛門カ与カトナル後ニ  
都筑ノ城ヲ本多百助ニ守ラシメ本多戸田ハ後藤カ居ケル  
日比沢ノ城ヲ請取ル氣賀ノ友作モ居住ヲ弃テ出奔ス是月  
秋山伯耆守モ駿州へ引取ル去年ヨリ遠州ニ出張シケルカ

夫ヲ信玄へ仰遣ハサル、ニヨリ信玄ヨリ正月八日返書來  
ル秋山カ退居遅々セハ討玉フヘキ様躰ナル故ニ秋山モ畏  
テ引ニケリ

同年三月四日氏真遠州ノ國人ヲ催シ軍ヲ起サシメントス  
神君是ヲ聞召諸軍ヲ出サシメ掛川ノ城ヲ圍シメケリ五月  
先陣本多平八郎忠勝松平主殿助伊忠城兵朝比奈備中守三  
浦監物ト合戦アリ伊忠カ從軍石原十助ト云者城門ニ向テ  
敵ノ兵ヲ躰ケルニ一矢ニ中リケルカ赤馬ヨリ落サルニ二  
ノ矢ヲ放テ殺シタル敵ノ大將其矢繼早ナルヲ感メ其矢ヲ



金ノ團扇ニ乗セテ伊忠カ陣へ送りケル七日西宿ニテ戦ヒ  
アリ大須賀五郎九衛門康高柳原小平太康政等先手ニアリ  
テ戦功アリ菅沼三五郎ハ笠原七郎兵衛ヲ討トリ本多三弥  
正重ハ新谷小助ヲ討取高天神ノ中山是非之助ハ伊藤九近  
ヲ討トリ高カ与九衛門清長ハ栗飯原平九衛門ヲ討トリ高  
橋傳七八朝比奈小三郎ヲ討取松下嘉兵衛ハ菅沼帯刀ヲ討  
取小林勝之助重實モ首ヲ得夕リ林藤四郎吉勝馬上ノ敵三  
騎射落ス小笠原喜三郎康勝鎗ヲ合ス安松矢之助ハ敵大勢  
進ミ来ルニ矢ヲ放テ歟退ク菅沼新八郎定盈攻戦ヒ從者菅

沼源太郎今泉甚助同孫三郎同久九衛門鎗ヲ合セ彦坂小作  
矢ヲ放テ敵ヲ多ク歟殺ス本多豊後守廣孝カ嫡子彦次郎康  
重十六歳ニテ高名アリ從士本多九馬之助吉見孫八郎奥平  
美作守貞能力從士名倉五郎作皆々鎗ヲ合ス松平与市忠政  
菅沼山城守定政後土岐氏ト成戦功アリ城中ノ大将備中将監并笠原  
出羽守強ク戦テ退カス伊藤治部同掃部朝比奈小隼人等戦  
死ス城中ノ士死スル者百八十人ナリ味方ニモ戦死スル者  
多シ加藤市重郎正重モ討死ス大久保甚十郎ハ深手負テ側  
ニアリケルカ味方ノ士戦功アルヲ一々能見ケルヲ皆人其



勇ヲ感シケル城中ノ兵戦ヒ疲レテ引退キケル味方勝ニノ  
リテ竹束ヲ揃ニメキヒシク城ヲ攻ケルニ敵ノ兵船數艘ニ  
乗テ掛塚湊ヨリ上リテ味方ノ後ヲ攻レトス  
神君聞  
シ召テ大須賀康高神原康政鳥居彦右衛門元忠等ニ被仰付  
急キ攻寄ケレハ敵ノ兵舟ニ乗ケレハ追付テ戦ヒ敵ヲ多ク  
討取り兵ヲ引テ飯リニケル明シハ人ヲ遣シ見セケルニ敵  
皆逃ケリ又氏真勢尽ケレハ城中ヨリ朝比奈弥太郎ヲ使ト  
メ石川日向守家成酒井雅樂助正親カ陣中ニ來リ和談ヲ乞  
ニケル  
神君淺原主殿ヲ使トメ氏真カ家臣小倉内藏

助賀文カ許ヘ遣サレ仰有ケルハ我幼少ヨリ義元ノ恩ヲ受  
タレハ氏真ト中違ヒセント思フヲ無シ然レモ惡人等種々  
ノ讒言シケル故ニ軍ニ及ヘリ今ヨリ遠江一國ヲ我ニ与ヘ  
ハ人數ヲ引取和談スヘシ其上ハ北條氏康ト申合セテ両方  
ヨリ信玄ヲ撃滅シ氏真ヲ再ヒ駿府ヘ飯城セシムヘシ若是  
ヲ違背セラレハ遠州ハ遂ニ信玄カ手ニ入ヘシ思案アルヘ  
キト也ト有ケレハ小倉則氏真ニ申ケル氏真實モト思ヒテ  
神君ノ御陣中ヘ來ラシメ誓ヲ以約束相違有ヘカラストソ  
申ケル城中兵糧沢山ニメ要害能所ナレハ猶モ用心アリテ



所々砦ヲ築テ金丸山ニハ山家三方作手ノ奥平美作守貞能  
田嶺ノ菅沼刑部少輔長篠ノ菅沼新九郎正貞ヲ指置ル河田  
村ニハ酒井九衛門尉忠次小笠山ニハ小笠原与八郎長忠久  
野ニハ三郎九衛門宗能ヲメ守ラシメテ  
神君ハ岡崎  
へ皈ラセ玉フ去年遠州引佐崎ニテ氣賀ノ凶徒蜂起ス其殘  
黨西光院實諸寺桂昌院並郷人首將尾藤主膳山村修理或ハ  
齋藤竹田瀬戸余古加茂上刑部ニテハ内山黨是ヲ給人  
社方百姓等又蜂起メ氣賀ノ東ハ卯ノ毛ノ郷松寄ノ郷北ハ  
吳石郷ト云大川ヲ要害ニシテ惶ヲ堀リ川ヲ引四方ニ柵ヲ

附テ男女千五六百人指籠ル是ヲ堀川ト云  
神君ノ皈  
ラセ玉フ道ヲサヘキラント相談シケルヲ  
神君是ヲ  
知ラセ給ハスメ十七騎ニテ其所ヲ通ラセ玉フ凶徒ヲ是ヲ  
知ラス其後石川伯耆守是ヲ通リケレハ凶徒ヲ悔ミケル  
明良洪範  
遠州濱松ノ城今川持ノ時ハ引間ノ城ト云飯尾豊前守居城  
也今川氏真松井郷藏取持ニテ豊前姪ヲ妾トスル所ニ諛奸  
ノ言ヲ用ヒ豊前ヲ駿府へ召寄セ被害豊前カ家老江馬安藝  
同加賀豊前後室ヲ守立引間ヲ守ル所ニ安藝ハ信玄ニ從フ  
ト秋山伯耆ニ屬ス加賀ハ  
家康公へ可為味方由ヲ通



翌日早々岡崎ヨリ本坂越ヲ押来リ王ノ處ニ氣賀村形部村  
一揆起テ本坂越ヲ押来リ立切ル故ニ新庄ヨリ舟ニ召シ今  
切レテ渡リ王ト濱松ヨリ一里前ウフミ村へ御著岬城近所  
ノ普濟寺ニ御著陣彼住僧按内者ニテ城中へ入御有ケレハ  
城中大ニ悅則江馬加賀妻子召出シ御念頃ノ上意アリ本坂  
ノ一揆共悉ク御討取其首負百余氣賀村ニ掛サセ王ヲ奉行  
山田半右衛門也此時二侯ノ松井郷藏モ城ヲ明ケ退ク  
神君中根平九衛門正照青木又四郎貞治ヲ二侯ノ城御預守  
ラセラル

家康公濱松ニ入ラセ王ト遠州堀江ノ城大

澤氏並同所カキ上中安權田入野ノ木寺宮御攻有迹藤右衛  
門武威ヲ勵マシ手負フコノ時遠州ノ御敵飯降又濱松ヨリ  
岡崎へ御飯ノ時氣賀城ハ新田友作カ臣尾藤竹田山村共外  
郷民一揆メ 神君ヲ討奉ラント謀ル所ニ 神君  
忍シテ十四五騎ニテ飯ラセ王ヲ是ヲ不知御跡ニ石川伯耆  
守通ル所ヲ 神君ト思ヒ鉄炮ヲ打掛ル伯州能戰勝テ  
氣賀一揆ヲ追拂フ氣賀モ 神君ニ服シ次第ニ遠州飯  
降スト云菅沼小大膳カ家從朝日丹波ハ遠州へ入手宇津山  
ノ士ニテ武名世ニ聞ヘタリ同臣宇野新藏依々木庄右衛門



譽有者共ニ後年御家人ト成也

武徳大成

神君岡崎ヨリ御人數ヲ出サシ堀川ヲ攻サセ玉ヒ戰アリ小

林權太夫討死ス然レ此地ハ險阻ニメ要害ノ能キ地ナリ

急ニハ成難シトテ海別吉見村ヨリ宇布見村へ渡海メ濱松

ニテ御陣ヲ備ヘラル

地下人中村源九衛門入道喜樂ト云者  
御舟ヲ出シ後ニ秀康公ヲ撫育シ奉ル

二月十九日大

澤九衛門基胤カ籠リタル堀江ノ城ヲ攻玉フ先手目付ニハ

渡辺圖書高

渡辺山城守  
茂カ子ナリ

ヲ相副ラル菅沼定盈馳向テ戰功アリ鈴

木三郎太夫重路討死ス弟權藏是ニ代テ軍ヲ勤ム

君附城ヲ搆シメ玉ヒテ二十七日氣賀ノ堀川ヲ攻タマフ山

後平太寄ト云フ所へ御陣ヲ取り玉フ

此所ニ御殿松ト  
テ今ニ古木アリ

彼地海へ

ンナレハ潮ノ干ヲ待テ兵士凡一同ニ攻入ケレハ凶徒等防

ク1成難ク過半ハ討取ケル森川金右衛門氏俊戰功アリ

神君仰アリケルハ百姓等大敵ヲナスヘカラス滅スマテハ

及フヘカラストテ殘黨六七百人ヲハ赦サセ玉フ今ニ子孫

氣賀ノ村々ニ居住ス味方ニモ平井甚三郎大久保勘七郎小

林平藏太夫等討死ス柳原康政モ先登シテ疵ヲ蒙ル其後尚

モ余黨ヲ治メ玉ハシトテ石川伯耆守弟半三郎剛強ナルモ

ノニテ此所ヲ領知セシメ百姓等ヲ従ヘケリ



信長城と武津陣より築き公方とまゝとて交戦は能河り  
先人も四方より来て乳母小ひさしとれは花物とその日  
信長を小敵と打ちも也長忠之弟をを人出二寸小長一  
六寸とるをよく押こくと一番衆行一と付ゆり小門あり  
と盗人小うり一は杖紐と切らき一車とそとよりと攻  
まりとるはぬす人部と力くかひ小刀ありとぬき丸  
るをゆきりなりと出ゆり小小ぬき人とぬきとひ  
とにぬきりしりか

えり小世はち信を小たまきれ一味とて信長小深及と  
信長とゆはありて城を攻るす公方逃く宇治は牧師の  
城り小あり牧一由は城ハ公方に属したる小城也信長  
まて追うけ牧師と系宿の公方逃く西へとて毛利とたはみ  
かこれ居る後大同は世代小徳と云われり公方は末とて所  
似いらぬかんと思ひき一小徳小二百石と云く世は者とい  
後小病死す

續開談

二条及小池は世には今北室町小池の町之西に志仁の乳小焼  
あり一信長は頭を跡はとせまり小池より泉涌ては條へ  
ちり今北月洋町より流る小池は世小八太松小友の如



ちる危云やうらやう小舟り〜乱後衰微は公家危なり九二条  
 への侍小屋といふは二條法正小十京北名はるも  
 友共事なり信長法正二條殿と八穀忍寺と磐代寺と後  
 小池法正法正と名をて屋敷をく友造とて小池小反橋をく  
 とくけく馬丸をりやも室町法正東側乃町屋の裏小も長崎  
 とくけ門は南向なり叔信長時と上法とては〜法正法正は  
 長〜世記と 儲君陽光院 誠仁小秋〜あ小波沙福院乃付  
 法安院玉箱も放り〜あ法正〜侍松尾江村寺歌法安 宗強  
う勇往又百歳 傳く名生ん 卯〜も十三歳少〜新立家六町中法正法正

法正せ〜む寒日布隔子法正法正とて云す〜云云信長母後は  
 又妙光寺小止宿す妙光寺を小池法正と名り〜今法正町  
 某所小止宿す

主須延壽院玄朔ハ故道ニ法正法正子少〜法正法正上首なり見  
 人〜敬慕す 故及二六年法正一 玄朔法正功益法正〜て方〜  
 法〜り〜り家柄もかく〜大さなる朱〜〜法正法正と名り  
 させり小履中〜杖と名〜歩行〜〜法正法正と名り  
 子〜り小思ひ〜〜法正法正

武徳大成  
 夏四月十二日堀江ノ城へ和義ヲ調へ王ヒテ御誓紙ヲ下シ



玉七 大沢基胤並家臣中安兵部權田織部泰長皆々降參ス中安

權田ハ其後麾下ニ召出サル中安ハ關ヶ原合戦ニ討死ス其子兵部ハ早世シ子孫断絶スサレトモ其母一生ハ祿ヲ玉フ 基胤ニハ本領ノ御

印ヲ下シ玉フ今川氏真尚モ疑テ懸川ノ城ニ有ケレハ奥平

貞能嫡子九八郎信昌カ計ヒニテ小倉内藏介ニ弥申舎メ

神君ヨリ御誓紙ヲ下シ賜リケレハ五月六日氏真城ヲ出テ

懸塚ノ浦ヨリ舟ニ乘リ北條氏康カ聳ナレハ兵士ヲ出シテ

迎シム 神君ヨリモ松平紀伊守家忠ニ被仰付兵ヲ率

テ伊豆ノ戸倉迄送ラシメ玉ヒ懸川ノ城ヲ酒井左衛門尉石

川伯耆守本多作左衛門ヲ遣シテ衛護セシム

廿二日 神君懸川ノ城ニ入セ玉フテ遠刈皆御年ニ入

ニケル懸川ノ城ヲハ石川日向守家成ニ下シ賜テ守ラシム

此時麾下ノ士加藤新五左衛門同新七郎同三七郎成瀬惣市

郎渡辺甚平次石川弥七郎同太郎五郎太田弥太夫伊奈市丸

衛門細木弥次之助山崎五助三浦利兵衛淺井藤右衛門瀧見

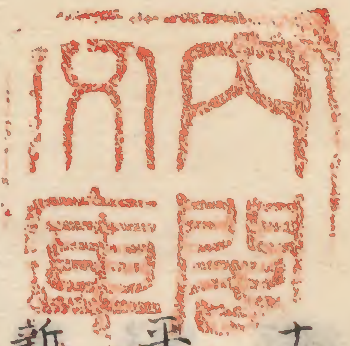
助右衛門周防加右衛門久目武太夫等ヲ組ニ御附アリ後ハイツレ石川

家ノ家 是ヨリ先三川一國ノ士ヲ二組ニ御分ケアリテ酒井左

衛門尉石川日向守二組ノ旗頭タリ西三河ノ松平源次郎松

平三藏嵩田平藏松平勘四郎松平宮内酒井雅樂助内藤喜一





郎平岩七之助鈴木喜三郎小笠原越中守八日向守家成力組  
 ナリ東三河ノ松平右京松平内膳松平源七郎松平又八郎松  
 平玄蕃松平又七郎松平弥九郎設樂神三郎菅沼新八郎西郷  
 新太郎松平丹波守奥平美作守牧野新次郎鷄殿八郎三郎等  
 ハ九衛門尉忠次力組ナリ懸川ノ城ヲ家成ニ賜シ時仰ニ依  
 テ旗頭役ヲハ兄伯耆守數正ニ譲リテ九衛門尉伯耆守西人  
 カ組ニ付サルハ日向守家成大久保七郎右衛門忠世大須賀  
 五郎九衛門康高松井左近忠次其外御旗元一手役ノ本多豊  
 後守廣孝本多平八郎忠勝鳥居彦右衛門元忠榊原小平太康

政等ナリ

明良洪範

家康公遠州御年ニ入始ハ遠州吉備ノ住依原十郎九衛門義  
 成力文覚ニテ先濱名九郎ヲ御味方ト成シ御旗ヲ吉備ニ押  
 立ル從是 家康公日蓮宗吉備ノ妙立寺マテ御出馬ア  
 リ是ヨリ次第ニ遠州御年ニ入義成ハ天正十八年於武州岩  
 付城車橋城兵山田大学力矢ニ中ツテ死ス其后嫡子作十郎  
 重成於三列吉田御目見近臣ト成改三浦監物上總國土氣領  
 ニテ一萬三千石ヲ賜ル三浦大助義明カ七男依原十郎義連  
 カ長子愚遠江守盛連力後胤也



武徳大成

同年夏五月

神君遠州一國ヲ治メ王ヲ故ニ五六百騎

ヲ召連ラレ國中ヲ巡見シ玉フ武田カ家臣山縣三郎兵衛景

仲三十余騎ニテ金谷ヲ通りケル路ニテ出合ケルニ信玄ト

ハ既ニ和睦ノイナレハ景仲禮ヲメ通りケルカ

ノ御人数少ナキヲ見テ自ラ切ヲ立シト思ヒ喧嘩ノ様ニモ

テナシテ不意ニ撃シトシケル

五六町引退キ狭キ所ニ待カケ玉ヒテ防キ玉ヒケルニ景仲

カ兵七八騎討取ケレハ景仲利ヲ失テ引ニケル世ノ人口々

ニ云ケルハ武田一旦和睦シ幾程モナク約ニ背キケル山縣

カ仕業不義ナリト笑ヒケレハ信玄是ヲ聞テ世ノ謗リヲ憚

リ景仲ヲ暫ク追籠ヲカレケルカ馬場小山田ナトカ佗言シ

ケレハ免サレケリ是ヨリメ武田ト約束變シケレハ敵對シ

玉フ

古人物語

信玄ト 權現様ノ御手切ノイハ今川義元討死以後被

成候信玄ヨリモ若キ人ニ候間義元時ノ如ク可被成候位駿

河ハ信玄ノ持ニテ候川切ニテ相濟候御誓紙ニテ御和談ノ

所ニ參河ノ何村トヤラシノ百姓共ノ人質ヲ信玄取候ユヘ

權現様ヨリ如何ト被仰候ヘハ誓紙ヲ出し被見候得ト也誓



紙ニ八川切トナリ信玄方ヨリハ天龍川切ト被申  
現様ヨリハ大井川ト思召候ト也是ニテ  
權現様御立  
腹天龍ハ吾城ノ堀ノ様ナルヲ何トメ天龍川ト可申候ヤ若  
キ者ニテ如此被申候間後マテ頼ミカタシトテ御手切被成  
信長ニ御付被成候トナリ  
武徳大成  
甲州ノ兵懸川ノ城ヲ伺フト聞玉ヒ石川家成カ鞞松平清宗  
ニ被仰付城中ノ加勢ニ遣ハサル清宗ニ遠州ノ三邑ヲ賜テ  
兵ヲ別テ新坂ノ塩井原ヲ守ラシム信玄ハ北條氏康ト薩埵  
山ニテ日々戦ヒアリ  
神君能折節ト思ヒ召テ兵ヲ駿

府ニ出メ守將山縣景仲ヲ責シム景仲守ルヲ成難クメ城ヲ  
捨テ逃失ス信玄聞テ前ニハ氏康カ兵アリ若三河ノ人数ニ  
テ後ヲ攻ラレハ防キ難カラント思ヒ甲州へ引取ニケリ

家忠日記

氏康蒲原ノ城ヲ北條新三郎大宮神田屋鋪ハ北條陸奥守善  
徳寺ノ城ハ大藤元近右衛門尉其外奥國寺中窪並山新條深  
沢山中十余ヶ所ノ城々ニ兵ヲ留テ是ヲ守ラシメ軍ヲ引テ  
小田原ニ飯ル

明良洪範

北條元衛門指物ヲ深澤ニテ信玄ト取合ノ時落シ信玄家へ  
無隠黄八幡ノ指物ヒロイ来ル流石ノ北條モ黄八幡ヲ逃足



ニ落シタリト武田ニ笑之信玄聞玉ヒ定テ指物損スル為ニ  
替リノ指物ヲ取落シツラシ其吟味モナク一向ニヒケトハ  
難云無隠勇者ノ指物是ニアヤカリ譽ヲ取候ヘトテ真田ニ  
被下<sup>ニテ</sup>是信玄良將故敵ニ忿ヲ含セテハ重テ無理ナル戦  
ヒスル者ナレハ北條モ三千ノ士大将ナレハ重テ六カシキ  
トノ奥意也北條家ニテモ聞之何モ嘲ケル所ニ批判ヲ聞テ  
何シモ惡説ヲ申止ケリ北條モキ、及ヒ信玄ノ志ヲ感ノ泪  
ヲ流メ悦之ト也

家忠日記

大神君ノ武威ニヨリテ今川氏真再ヒ駿府ノ城ニ飯リ入ル

ト云凡城中皆焦土ト成テ暫時モ在城シ難シ故ニ氏真森川  
日向守小倉内藏助ヲ奉行トメ府ノ城ヲ修造ス此間氏真豆  
刈戸倉ノ城ニアリ其後岡部次郎右衛門尉正綱同姓治部右  
衛門尉二人森川小倉ニ代テ府ノ城ノ經營ヲ監ス故ニ森川  
小倉等ハ駿府ヲ去テ戸倉ニ往ク

柏寄物語

信長六月十二日北領收年(此後修筑北河内由小島城  
迄及秀吉武勇夥シ信長其人殺七百余中ノ攻ケルニ糧  
攻不可攻トシテも糧勅シシハトシテおケル糧少  
嘲嘆す小島肥満あり是を以テ之後や嘲嘆す者也



討り小村をせよと秋山は信長の二人を射るふ丁をのちと  
討りて北谷に迫りしよとの信長へ内通をせしむる事  
少く謀殺せしむ信長を捕らへて久しく居てはるるを  
川上原を清くしむる事送る事不知林に隠居しし子息信元  
を肥後也信雄と表し小うせしむる事送いけしむる事  
為ると承知せしむる事せん九と貫りれ和睡すむ信長も討り  
織田勝頼と信雄少月を討つ事外大勢敗れし事  
小島村父子と信長法師は無人ゆゑ殺す事小島村  
討つにせしむる事信雄少く居る事信長は家より居る事

とて趣小なる取上方へは飯はより申國を可攻し中なる且山  
山は信長の事小島織田勝頼と信長は後信長はたぬ小焼焼き  
ちは信長は日せしむる事無人は事ハ

武徳大成

六月 神君兵ヲ殺メ山内河内守カ楯籠ル遠州天方ノ  
城ヲ攻シム榊原小平太先陣トメ城門ヲ破リ二ノ丸マテ乱  
レ入ル天野三郎兵衛康景敵ヲ討取り疵ヲ蒙ル大久保忠鄰  
モ高名アリ山城守力尽テ降参ス夫ヨリ直ニ飯田ノ城ヲ攻  
落シ城守山内大和守ヲ殺ス

家忠日記

八月廿八日此春今川氏真久能宗能ヲ強テ招クトイヘ氏是



ニシタカハス  
大神君ノ麾下ニ属メ軍忠ヲ尽ス  
大神君其志ノ切ナルヲ悦ヒ玉ヒテ彼カ一族ヲ没収ノ地ヲ  
以テ宗能ニ賜ル

宛行同名侯族等同強正英采女依知行ノ事右ノ度彼之人  
惟企逆意宗能立別後名基以忠良也然乃為之賞彼法武知行  
名一系出重永亦不有相違若同人之者有之其所以好分  
一節付以重有彼同人之者後許証不可許容者也其詳

永禄十二己巳年

八月廿八日

家康

久保新左衛門右

九月松平玄蕃頭清宗石川日向守家成ニ加テ掛川ノ城ヲ守  
ルト云氏其後  
大神君ノ命ヲ奉テ清宗塩井原ノ砦ヲ  
守ル是ニ依テ松平元近直乘ヲ掛川ノ城後諾トメ遣ハシメ  
玉フ干時  
大神君御書ヲ直乘ニ賜ル

掛川藩より後兼日泉列中より取左候に元来九女日愈川にて  
江和後山境同しより山間一割もこの江急山とて地

九月十六日

家康

松平元と友



武田信玄駿州ヲ畧シ府ノ城ヲ得テ山縣三郎兵衛尉ヲメ誓  
時是ヲ守ラシムト云氏 大神君ノ御武畧ニ因テ幾程

ナク府ノ城ヲ追出サル信玄是ヲ大ニ憤テ相州小田原ニ軍  
ヲ發メ後進テ駿州ニ攻入再ヒ府ノ城ヲ奪ヒ返サント欲メ  
相州ニ進發メ小田原ノ城下ニ放火ス

十月六日信玄兵ヲ収メテ小田原ヨリ甲州ニ飯ル

八月信玄氏康カ兵ト相品三増ニ戦フ駿州及ヒ豆列ノ數城  
ヲ守ル北條氏康カ部將ヲ信玄相州ニ攻入ルノ由ヲ聞テ是  
ヲ拒ン為己カ守ル所ノ城ヲ弃テ各小田原ノ城ニ飯リ集ル

北條新三郎独蒲原ノ城ヲ守テ相州ニ去ラス

十一月五日武田信玄甲州ヲ發シ相駿豆三ヶ國ニ軍ヲ出メ  
武威ヲ振フ

十二月六日信玄駿府ノ城ヲ攻コト欲メ蒲原ノ城下ヲ過ル  
于時新三郎蒲原ノ城中ヨリ兵ヲ發メ武田カ多勢ト戦テ利  
ヲ得ル于時蒲原ノ城ニ内應ノ者アツテ武田カ兵ヲ後ノ山  
ヨリ城中へ引入ル是ニ依テ北條新三郎内外ノ敵防ケテヲ  
不得奮戦テ遂ニ死ス從兵七百人皆戦死ス

七日信玄進コテ駿府ノ城ヲ攻撃氏真カ臣岡部二郎右衛門



尉ヲ始テ五十余人府ノ城ヲ守テ是ヲ拒クノ間城陥ラス信  
玄是ヲ謀テ鉄山和尚ヲノ和ヲ岡部ニ請テ云ク府ノ城ヲ避  
渡メ我ニ属セハ岡部兄弟及ヒ城ニ籠ル所ノ諸士皆以テ加  
賜ノ地三十倍ヲ宛行ヘキノ旨ヲ説シム城兵各此旨ニ應メ  
信玄ニ降テ遂ニ府ノ城ヲ避渡ス  
十三日 大神君遠州榛原郡ノ内吉永西嵩幸玉殿窪星  
窪栢原及ヒ山川舟市山梨二千貫ノ地ヲ松平元直直來ニ賜  
ル

翁物語

翁物語ノ次小倉田信玄公お別ニ後合戦ニ逃ル友ト示シ

小倉田曰甲陽軍鑑小具小記セリ別小倉田信玄公後多クと云フ  
是も是也と云ふより翁物語ニ曰お別ニ後合戦ハ永禄十二年  
十月八日也信玄公甲府と所之のい敷日と経て別お別小田原迄  
引入蓮池と押彼小條氏康居城村町と上約屋とと云  
焼拂く人種より引退湯本ノ内風祭といふ處小倉田信玄  
と云ふ小倉家此所を焼ぬといふ小田原屋と云ふ斗残るを  
信玄公と云ふ石松田尾張守屋一記計焼せさるといふん中  
屋子事必定やと云ふ世に云ふと宣い世と云ふ場英徳と  
云ふ来を信別と云ふ所居小倉と云ふと云ふ所法度と云ふ







送筋北極子と云く北生補を小回せぬハ一増休と死切る人  
人ハ小條陸奥守同舎中安房守と云く外忠元孫公元江戶川  
越碓氷佐余小令忠概と繩北小條上徳也北信大乃於合二方  
余勝一増休と云く何より一信云と云く三増一押無ハ子  
細ハ氏康父子出向りぬく一信云北一戦と終ぬく一況家老  
大計少く信云と一戦ハ思ひく一信云信利殺す一と宣ひて  
一増一押と云く一忠也北小高陸北小田原守と云く忠軍  
北信方と云く一田と云く一押信小高陸と云く小高陸信利  
小高陸守と云く田は田返すめく信と信は向小陸守と云く内及

示越前と云く小父子お見小出く一田北後の言北より志門  
く小お見とすりと直利元是北との大八騎并余丹後江田加賀  
田中法信并之文信信水野信重信守信守本内高  
在信守本信守信守北八人馬と云く一信川と云く越前  
と云く一坂と云く一信と云く一信及小父子と云く一敗小守信  
八町半迄と云く一信八騎もゆると云く一信云と云く一増一忠也信云と云く  
一條元陣屋と云く一信川と云く一信一と云く一信一信云と云く  
信信と云く一信小高陸守と云く一信守と云く一信守と云く  
一信守と云く一信守と云く一信守と云く一信守と云く一信守と云く



此他法たぐいし小幡を以て夜を迷致し事好しや  
信玄公はあゝ先づ小幡を以て虎小田原(夜向守を小幡)と  
を言ふ所して引討敷軍せし一八才一小小幡を以て切筋と  
也明日し小幡を以て信玄公自ら引討敷軍と之を思ふ小幡を以て  
馬場英徳公の唯一十騎小幡を以て引討敷軍と之を思ふ小幡を以て  
引討敷軍と之を思ふ小幡を以て引討敷軍と之を思ふ小幡を以て  
大和守と云ふ小幡を以て引討敷軍と之を思ふ小幡を以て  
との依りて内蔵殿に上りて小幡を以て引討敷軍と之を思ふ小幡を以て  
扱ふ小幡を以て引討敷軍と之を思ふ小幡を以て引討敷軍と之を思ふ小幡を以て

引討小幡尾張守世茂を馬上三百騎を以て引討敷軍と之を思ふ小幡を以て  
武百人殺し内蔵殿に上りて小幡を以て引討敷軍と之を思ふ小幡を以て  
城より人殺し出づ小幡を以て引討敷軍と之を思ふ小幡を以て  
引討敷軍と之を思ふ小幡を以て引討敷軍と之を思ふ小幡を以て  
西人少つて小幡を以て引討敷軍と之を思ふ小幡を以て引討敷軍と之を思ふ小幡を以て  
内蔵殿と八段控軍と之を思ふ小幡を以て引討敷軍と之を思ふ小幡を以て  
出づ小幡を以て引討敷軍と之を思ふ小幡を以て引討敷軍と之を思ふ小幡を以て  
三塔跡と引討敷軍と之を思ふ小幡を以て引討敷軍と之を思ふ小幡を以て  
ハ二塔跡と引討敷軍と之を思ふ小幡を以て引討敷軍と之を思ふ小幡を以て



の名人たるゆへに馬場英濃は作付馬場二のふはに御務執ると  
定まらんやを儀利飯小は若根内通と検使小は先越る場飯小は  
武友表を捕檢使之指執れ飯小は二夜若右衛門檢使之此之  
いひしらひ路之残りハ此族元本組在小除く十二飯夜申小  
三増法山一上り定めれとく族元はらるるは後小は飯小  
之る典厩を小若駒舟内若修理取と在軍仕山縣を初能  
度一首尾するといん定め典厩お累の小族是とちる族と云はれ  
族次中二は教也一して戦と初より水原十二年八月廿四日  
小甲別と申之は小若又園東は信玄といふは流傳大將也

流傳とは定なりし也然小十月七日晚申向小若舟信玄  
公は先元一觸るハ明日と小條氏康の父子は族元と不見付  
て一戦必用ありと觸る明きハ十月八日ハ信玄ハ兼而定  
り是より小幡ハ志田法持上の山を祖傳一ぬま押越ると  
流小ハ縣押上と申ハ次き七段も祖傳一小押上小若駒舟行法  
内飯ハ小若駒と追之ニ増法持道乃りきを執る信玄公を  
族元組ハ小十六飯と云はれ山一押上ニ増法をたり見く飯  
小ハ小條駒一先り矢持つとりうハ兼小法持ある之度  
戦は乃ハ氏康より大款申ても弱款法款少くも少款小合



付山小幡山形ふとくぬま(一)不(一)く但傳小押とん(一)は  
追信(一)ま(一)成(一)二(一)河(一)道(一)一(一)つ(一)と(一)す(一)く(一)思(一)ひ(一)道(一)も(一)あ(一)ら(一)ま(一)り(一)て  
人数(一)と(一)信(一)言(一)と(一)山(一)傳(一)一(一)小(一)山(一)一(一)一(一)の(一)事(一)成(一)一(一)と(一)思(一)ひ  
故(一)道(一)林(一)り(一)と(一)思(一)ひ(一)て(一)小(一)山(一)の(一)跡(一)と(一)上(一)る(一)を(一)見(一)て(一)は(一)も(一)と(一)お(一)く(一)れ(一)と  
我先(一)中(一)と(一>あ(一)ら(一)ま(一)り(一)て(一>小(一>山(一>の(一>跡(一>と(一>上(一>る(一>を(一>見(一>て(一>は(一>も(一>と(一>お(一>く(一>れ(一)と  
く(一>山(一>の(一>跡(一>と(一>上(一>る(一>を(一>見(一>て(一>は(一>も(一>と(一>お(一>く(一>れ(一)と  
ま(一>ら(一)し(一>と(一>思(一)ひ(一>て(一>小(一>山(一>の(一>跡(一>と(一>上(一>る(一>を(一>見(一>て(一>は(一>も(一>と(一>お(一>く(一>れ(一)と  
馬(一)と(一>思(一)ひ(一>て(一>小(一>山(一>の(一>跡(一>と(一>上(一>る(一>を(一>見(一>て(一>は(一>も(一>と(一>お(一>く(一>れ(一)と  
山(一>の(一>跡(一>と(一>上(一>る(一>を(一>見(一>て(一>は(一>も(一>と(一>お(一>く(一>れ(一)と

ま(一)ら(一)し(一>と(一>思(一)ひ(一>て(一>小(一>山(一>の(一>跡(一>と(一>上(一>る(一>を(一>見(一>て(一>は(一>も(一>と(一>お(一>く(一>れ(一)と  
に(一>と(一>思(一)ひ(一>て(一>小(一>山(一>の(一>跡(一>と(一>上(一>る(一>を(一>見(一>て(一>は(一>も(一>と(一>お(一>く(一>れ(一)と  
合(一)戦(一)成(一)す(一>一(一>山(一>縣(一>と(一>思(一)ひ(一>て(一>小(一>山(一>の(一>跡(一>と(一>上(一>る(一>を(一>見(一>て(一>は(一>も(一>と(一>お(一>く(一>れ(一)と  
思(一)ひ(一>て(一>小(一>山(一>の(一>跡(一>と(一>上(一>る(一>を(一>見(一>て(一>は(一>も(一>と(一>お(一>く(一>れ(一)と  
及(一>押(一>迫(一>り(一>長(一>蛇(一>の(一>坂(一>一(一>山(一>縣(一>と(一>思(一)ひ(一>て(一>小(一>山(一>の(一>跡(一>と(一>上(一>る(一>を(一>見(一>て(一>は(一>も(一>と(一>お(一>く(一>れ(一)と  
余(一>が(一>思(一)ひ(一>て(一>小(一>山(一>の(一>跡(一>と(一>上(一>る(一>を(一>見(一>て(一>は(一>も(一>と(一>お(一>く(一>れ(一)と  
山(一>の(一>跡(一>と(一>上(一>る(一>を(一>見(一>て(一>は(一>も(一>と(一>お(一>く(一>れ(一)と  
た(一>る(一>武(一>志(一>一(一>勝(一>先(一>小(一>山(一>の(一>跡(一>と(一>上(一>る(一>を(一>見(一>て(一>は(一>も(一>と(一>お(一>く(一>れ(一)と  
と(一>軍(一>初(一>め(一>は(一>彼(一>武(一>志(一>一(一>勝(一>先(一>小(一>山(一>の(一>跡(一>と(一>上(一>る(一>を(一>見(一>て(一>は(一>も(一>と(一>お(一>く(一>れ(一)と



ハ彼武者と陰組一人ハ務ル者ト彼武者と討合々〜  
討せし残り二人少シ根返り〜組依〜生捕て来れしを  
二十人九段〜河原玄蕃藍川志乃節由中向以系大隅石坂劫  
乞請以〜人ハ西尾重軍初〜と同時小彼武者と生捕白根  
少〜〜め信玄御前より引まゝ〜主名と召多〜ハ小條陸奥  
少〜内人石を以〜との割取者〜こ〜中頃二〜甲  
別小五左小田系と和平ありて二年目小小條政〜油系〜  
竹〜板山縣〜〜め浮城法八飯又子余其人殺款持好〜と  
す押太敵族元より〜めめ小並討〜場英法寺典廐の志法  
者〜云小並上よりお衆と〜〜并汗と〜〜返す務ル公  
横入筋より〜お小た〜方筋大筋清利小條上徳元小法炮  
〜上より打戻〜小死す清利〜人数多〜と法  
族元より檢収曾根内通〜筋ハ檢収ハ〜と徳を〜は元  
内通飯村大筋〜あり〜一戦小小條上徳〜人死と追窮す〜場  
英法寺飯〜檢収武者を信〜傷付〜一番陰行〜場同〜を  
夏八幡平小〜陰と合〜戸飯大貳〜中二位〜了根元法作  
族元元法二番陰〜を〜して陰と〜力と接場所  
少〜款持勝〜〜ハ頭骨〜〜ハ小八人〜切候〜



して小條元く幼は不自由なるゆへ小條元の倣不よ粟沢  
堀ちんくそく切下をく無引程如場之まよ山嶽長蛇倣典  
厩の志は者より中程難れお累とゆへ好方無く実為一  
りの男小條家他人殺らんして中津川乃陸へ逃れしや  
上小重白死たるものを迹定る者ハ廿尔山へ迹上るもわり  
甲別家討死首級之子貳百六十九は首帳と云ふ増より東邊六  
里ゆくとそり白鳥と云ふ旅く猪凱と執行ゆふ永禄十二年  
己酉十月八日お別之場合戦し是と云也氏康父子ハ萩押しと云  
不きて押来りありた先元敗軍中ゆとる百附近一その是

少く小田原へ引入ゆふ伝云云宣ふ小條氏康當年ふ十五某伝  
云小六ツ年増之伝云云より時代先一人小指一ハ一入伝云云が  
重なり信別村上我信同出小蓋尔長付伝云云より増如と云  
とも氏康廿十も一も身新やれハ廿夜の二場合戦伝云年月  
念願は信利海是せりとのあふて別甲府へ海陣之廿二場合戦  
の目録に記未末とも武后とん小是る人きうく付理と云  
す一前小付理と記ととも程源く理を知りぬる為小重云  
と西小先つくお城は倣倣山嶽乃首尾馬場猪殺云と  
あひりらひ猪殺利々云んる也典厩は中程難れお累貝族元より



押を被進めりしは是後利根本之を以て三坊山草子小  
と申列勢は彼之を事自中成り付理と  
家康公より

志海一と云て迎來しそふ小なりあふり小田原の城乃とあ  
と宣ふと之三坊合戦の時も山原の飯と申し出たり方斗は不  
立と一と云と此代小三坊合戦を足附せ一人は理とふ別  
是と云也小原氏康ハ三坊合戦の時を隠居して氏政の代  
たり然も萩中より小原まで三坊合戦の時を氏康父子たふ  
是と云列向信玄公法歌此少也小原み代と云ハ

宗雲寺

氏長

小田原信玄公の人也と云信玄(初)  
下向し時ハ信玄は新九郎と云せしと云

氏繩

氏康

氏政

氏並

小原上総守

家老

同 常陸守  
同 左衛門守

感状記

信玄海野口ニテ信虎ニ乞テ後殿タルハ小田越前盛景カ謀  
ル処ナリ盛景ハ信虎ヨリ信玄ノ傳ニ付ラレタル者ナリ信



虎引取タマヘハ諸方ノ援モ引取テ城兵少ナク且急ラニ是  
一ツ也溪雪道ヲ埋メハ敵利ヲ見ル氏跡ヲモタフアタハ  
シ是ニツ也信玄是ニヨツテ城ヲ棄トラレタリ是ヲ信玄ミ  
ツカラシ玉フコトク甲軍ニ記シタルハ非也ト云リ

信玄其利藤藏ニ多田泚路ヲ相副テ信濃ノ木曾小笠原ニ當  
ラシム互ニ相持スルトキ多田謀ヲ以テ郷民ヲ近ツケ金銀  
ヲ与ヘ商賣人ニ作テヒソカニ敵地ニ入置タリ其年モ冬ニ  
ナレハ北國ノ習ヒ堆雪馬ノ足モタ、ス朔風人ノ肌モ裂ケ  
ルニ由テ共ニ引取明ル三月雪消風舒ニナリテ又對陣ス多

田ハシメ間ニ入タル郷民ニ敵ノ有サマヲ一々具サニコシ  
ヲトフ郷民敵備ノ体ハ固ク見ヘ候アタリノ野山ニ出テ馬  
ヲ馳セ弓ヲ以テ的ヲ射鉄炮ヲ以テ目當ヲ打候ト云多田コ  
レヲ聞テ敵ヲ夜討ニスヘキ謀策ノ候人數不足ニ候間今少  
シ加勢ヲ下サレ候ヘト羽書ヲ飛セテ信玄ニ告タリケレハ  
信玄スナハチ栗原下曾根ニ令セラル多田ニ士ヲ待得テ夜  
半過ルホトニ敵ノ圍ヲ斫テ亂レ入り騎士九十計リ雜兵三  
百余リ討取タリ信玄今度ノ功ヲ稱美メ其謀策ノ次第ヲタ  
ツ子ラル多田右ノ子細ヲ述テ是敵ノ虚ニテ候將ノ令嚴ニ



メ軍ノ法正シク候ハ、隙有ケナル業ヲハ專トセサル道理  
ニテ候前ノ年對陣シナカラサセル戦モナクサテ止候ヘハ  
敵コレニ慣ヒ今春モサアラレト戦ヲ心トセス味方ヲアナ  
トリ候足輕ヲカケ小利アルヘキトキモ知ラサル躰ニ仕タ  
ルハ大勝ヲ存セシニ依テナリ遂ニ怠弛ノ氣ヲ見付テ夜撃  
ニイタシ候ト申セハ信玄感セラレ、アスクナカラス

信玄小笠原長時ノ地ヲ侵ストキ長時ノ臣犬飼左衛門ハ勇  
智アル老將ナリ足輕ニ郷民ヲカリクハへ一二千計ヒキヒ  
テ鹽尻ノ山中ニサ、へ峯々谷々ヨリ鉄炮ヲ以コレヲ拒ク

信玄手痛クアタレハ按内ハ知タリ四方ニ分散メ手ニタマ  
ラス推通ラレトスレハ又峯々谷々ヨリ俄ニ出テ打シラマ  
ス信玄是ニ依テ鹽尻ヲ踰ルコトヲ得ス信玄ミツカラ其山  
中ヲ伺フニ日影モイタラヌ幽溪アリ冷水岩間ヨリ湧出テ  
猪鹿ノカヨフ微徑ニ苔フム跡アリ信玄コレヲ見テ下條九  
兵衛ニ令シ歩者百計ヲヒキイテカノ幽徑ニ伏シム敵モシ  
例ノコトク分散スルトキ此幽溪ヨリ出ル者アラハ前後ヲ  
引ツ、ミ其將トヲホシキヲ洩サス撃トレト委細ニ計ヲソ  
示サレケル犬飼又信玄ヲ防クコト始ノコトシ信玄撃破リ



テ押通ルニ案ニ違ハス六十許ノ老武者從兵二三十人ハカ  
リニテ幽溪ノ微徑ヲ下ル下條伏ヲ起シ透間モナク引包ミ  
ミツカラ鎗ヲ以テ先カノ老武者ヲ撞タヲシ殘ル者モ過半  
討捕タリ老武者ハスナハチ大飼ナリコノ後大飼ニカハル  
モノナシ是ヨリ塩尻ヲ越ナカク馳テ桔梗原ニ入タマフ毎  
戦ニカナラス勝テ長時遂ニ下リタルハ險ヲ失テ守ルコト  
ヲ得サルカ故ナリ

長時ト信玄ト桔梗原ニオイト相戦フ日暮ニヨヨヒケレハ  
西軍引退テ陣ヲムカフ明日ハ先負ノ凶日也長時ハ定テ信

玄モ是ニ忌テ懸ルヘカラスト思ヒ怠リ有ニテ信玄察セ  
ラレケレハ其不意ヲ討テ大勝ヲ得タリ又信玄飛驒ニ働カ  
ル、時ニ破軍返ニアタリテ身方沮湟ノ心アリ信玄其色ヲ  
睨リ敵ヲ擊敗リテ後ニカケ通テ後ヨリ又是ヲ討ハ敵カヘ  
ツテ破軍返ニ當ラスヤトテ勵之直ニス、レテ遂ニコレニ  
勝信玄ノ占候ニ拘タマハサル一カクノコトシ  
信玄村上義清ノ領分仇久郡ニ入テ城ヲ攻ル時取出ニ人數  
カサミタリ信玄是ヲ見テ敵ノ計ヲ察スルニ能シホ合ヲ見  
テニワカニ突出シトスルナラニ味方ノ備立ヨロシカラス



トテ取出ノ前ヲ避テ左右ニ分レテ陣セヨト飯富板垣カキ  
ニ三井米田両使ヲ以テ下知セラル米田竹束ノ内ヲ行ク三  
井カ曰何ソ竹束ノ外ヲ行サルヤ米田カ曰鉄炮繁シ中リテ  
益ナキ一也只内ヲ行ニシカシト三井聞スメ獨外ヲ行三井  
鎧ヲ打カスラレ小劊ヲ蒙リタリ両使イタリテ命ヲ告シハ  
飯富板垣スナハチ備ヲ立直ス両使カヘルニ及テ米田カ曰  
外ヲ行ニ三井カ曰不可ナリ鉄炮オモヒシヨリ搦シ是見ラ  
レ候ラヘトテ打カスラレタル鎧ノ跡ヲ示ス米田聽スメ外  
ヲ行三井ハ初二懲テ内ヲユク三井飯リテ右ノ一ヲ以テ米

田ニ問米田カ曰君ノ命ヲ承テ使タル時モシ鉄炮ニ中リテ  
死セハ大夏ノ合戦前ニテ勝負ノ分ル所ナルヲ謀遲滞セハ  
不忠ノ至リ也何ソ危フキ外ヲ行ニヤ故ニ身ヲ縮メ鉄炮ヲ  
避ルヲ道トス既ニ命ヲ告タリ又命ノコトク備タリ御返夏  
ハ別ニカハリタル手段モナケレハ飯テ申立ス厄害ナシ飯  
ルニ及テハ男夫ノ勇ヲ顯ハス所也ナンソ内ヲ行テ身苦シ  
ク背ヲ曲メテ死ヲ怕レタル形ヲナサレヤト三井應ルニ辞  
ナシ信玄是ヲ聞テ大ニ米田ヲ稱セラル三井ハ勝頼滅亡ノ  
後ナヲ甲斐ニ居残りタリ河尻肥前守ハ信長長篠ニ於テ曹



ヲ賜ハリ再拜ヲ許サレ軍令ヲ司ルホトノ者ナレハ甲斐ニ  
封セラル河尻無道ニメ國民苛虐ニクルシム此ヲ以テ一揆  
起ル河尻カ逃ルトコロヲ三井追ツメ鎗付テ首ヲ取其勇敢  
尤米田ニ劣ルニハ非レ米田ニ比スルニ各別ニ見ユルハ  
剛ト柔トヲ以テ論セサレ功ト無功ト理ヲ辨ルト不辨トニ  
アリ



武徳成業卷之六終



